

静間小だより

～気づき 考え みんなで創り出すⅡ～令和7年 11月号

「気づき 考え みんなで創り出す」⑱

～全校朝礼「気づきから学び・授業を創り出す」～

全校朝礼を行いました。はじめに表彰式をしました。審査会やコンクールに出品すると、当然賞はつきますが、子どもたちが自分たちの作品を最後まで作り上げ、達成感を味わい、やりきったと思えることに教育的な意味があると思います。その中で、入賞した子どもたちには、この経験が強い励みとなって、よりいっそうの探究心や学びへの意欲が高められていくかもしれませんね。

コップをひっくり返してもこぼれない水



表彰式の後には、子どもたちに話をしました。はじめに、ある「謎の白い粉」を見せました。その粉を水の中に入れると、なんと水は固まります。子どもたちはびっくりしていました。さて、謎の白い粉の正体が何か、もうお気づきですか？そうです。「吸収性ポリマー」です。この吸収性ポリマーを使った身近なもので、一番メジャーなものが紙おむつです。子どもたちには、紙おむつのしくみについて話をしました。ただ、子どもたちに一番伝えたかった話は、吸収性ポリマーを、「子どもたちは学びに」、「教師は授業に」活用することができないかということです。本来の用途で

はなくとも、その性質によってはいろいろなことに活用することができることを知ってもらいたいと思いました。つまり、「性質に気づく」、「活用できないかと考える」、そして「新たな学びや授業を創る」ということがテーマでした。

今から20年以上前、私が30代のころの話です。テレビで紙おむつのCMが流れていました。水が入ったコップの中に、吸収性ポリマーを入れると水が固まる場面が映像として流れていました。だから、尿がもれずに、赤ちゃんの肌を守ってくれるという話だったと思います。この時、「この吸収性ポリマーを使えば、見えないものが見えるかもしれない。」と思いました。では、何が見えるのか考えました。当時、3年担任だった私は、理科の授業で、植物のしくみを子どもたちにどう学ばせていくか考えていました。「これだ！！」と思いました。この学習の中では、植物の根・茎・葉の基本3要素について学んでいきますが、根は土の中にあり、成長過程をとらえることができにくいのです。ですが、この吸収性ポリマーを使って栽培すれば、根の成長過程をとらえることができるかもしれないと考えました。実際にやってみたら、しっかりと根の成長を観察していくことができました。

成長した根の様子



今、求められている学力の一つに「活用力」があります。学んだことや発見したこと、気づいたことを、自分の学びや暮らしに活用し、新たな学びや暮らしを創造していく中で、協働的に課題・問題を解決していく力が、子どもたちが将来社会に出た時に、子どもたちを支えていく大事な力です。その意味が、本校の合言葉「気づき 考え みんなで創り出す」には込められています。子どもにも、教師にも、「活用」の意識が求められていると思っています。

遠足～鳥井海岸に徒歩遠足～



10月17日(金)、秋晴れのもと、1～4年生が鳥井海岸へ徒歩遠足をしました。出発前には、「自分だけではなく、**みんな**が楽しめる遠足をみんなで気づき、考え、創り出そうと話しました。長い道のりを歩ききりました。砂の造形活動も協力してやりきりました。4年生のリーダー性も磨かれました。どんなに疲れていても、リーダーとしての責任を果たそうとしている4年生の姿に成長を感じました。また、ルールやマナーも考えたり、縦割り班で声をかけ合って活動したりしている姿に、「気づき 考え 創り出す」ことを意識しているなど思いました。楽しい遠足でした。

5年生が三瓶宿泊研修に行ってきました



宿泊研修に限らず、「大人の出番が少ない活動」が一番いい活動だと私は思っています。「大人の出番が少ない」ということは、裏返せば、「自分たちで活動を創っている」ということです。みんなの立場や心、今何をしなければならないのか、何をやる時なのかに気づいて、どう行動すべきか考えて、みんなで宿泊研修を創り出していました。それにより、みんなの親睦は深まり、高学年としての力や心が磨かれていったと思います。三瓶の自然に親しみながら、楽しい思い出もたくさんつくることができました。

そして、やりっぱなしで終わらないことが大事です。宿泊研修の成果と課題を振り返ることが、この宿泊研修を今後の暮らしにつなげる大事な学びになります。事後の学習も充実させていけるとよいです。絆も深まり、子どもたちはうれしそうでした。

連合音楽会



11月6日(木)、連合音楽会がありました。静間小学校は、3年生から6年生が参加し、合唱と合奏を披露しました。2学期は、子どもたちに「**本気**」で取り組んでいこうと話しています。連合音楽会に向けた取組を重ねるごとに、子どもの「本気」が上がってきて、その心が表情や声、音に表われるようになってきました。とてもうれしい姿でした。こうした取組の過程で力や心は磨かれます。個人練習や全体練習を繰り返し、子どもたちは「本気」の気持ちを高め、立派に発表しました。本気でやりきりました。

そして、子どもたちの中から、こうした「**本気**」を引き出せる教職員の指導は素晴らしいです。その姿勢にも私は心打たれました。子どもたちと教職員に「ありがとう。」という気持ちでいっぱいです。連合音楽会をきっかけに、子どもたちの「気づき」から「創り出す」力がいっそう高まりました。

